

重松 ゆうこ 新聞

「食は命」を合言葉に！

vol.3

重松ゆうこファンクラブ

はじめまして!重松ゆうこです 【驚愕の学校現場】



みなさま、こんにちは。重松でございます。

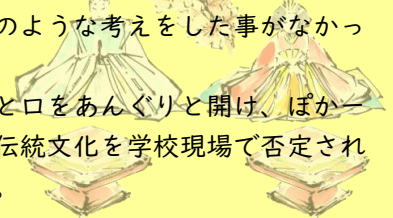
大寒も過ぎ、寒さが本番を迎えました。体調管理にはくれぐれもお気をつけください。

さて、前回のお話の続きをさせていただきます。

私が元教諭だったのは、ご存じの方もいらっしゃると思います。教諭として初めて任用された小学校は、早良区(当時は西区)の自然溢れる小学校でした。バス停から1キロもあり、そばには綺麗な川や田んぼも多く、環境はとても素晴らしい学校でした。

しかし、教育方針の違いで人間関係には大変苦勞しました。一例を挙げると、「ひな祭り」は天皇制を認めるので差別である」と言われました。私はそのような考えをした事がなかったのでびっくりしました。

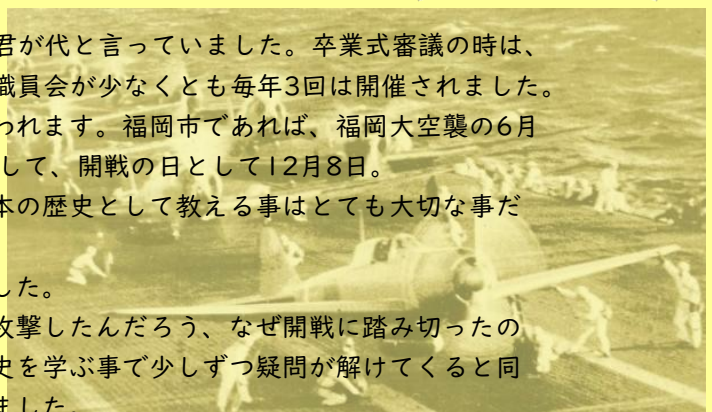
帰省した時、その事を母に話すと口をあんぐりと開け、ぼかーんとしていました。私は日本の伝統文化を学校現場で否定されたことが本当にショックでした。



当時はまだ国旗国歌法もなく、日の丸、君が代と言っていました。卒業式審議の時は、日の丸掲揚と君が代斉唱を行うかどうかの職員会が少なくとも毎年3回は開催されました。節目の日には、必ず戦争に関する教育が行われます。福岡市であれば、福岡大空襲の6月19日、原爆が投下された8月6日と9日。そして、開戦の日として12月8日。戦争は悲惨なものだと教えていました。日本の歴史として教える事はとても大切な事だと思っています。

でも、私には子どもの頃から疑問がありました。

負けると分かっている、どうして真珠湾を攻撃したんだろう、なぜ開戦に踏み切ったのだろうという事です。ここ数年、本当の歴史を学ぶ事で少しずつ疑問が解けてくると同時に、歴史教育はとても大事だと再認識しました。



高校時代の私は、歴史は受験で年号を覚えるだけの科目というイメージで、どうやって点数をとるかしか考えていませんでした。60歳を過ぎて、先人の苦勞や思いを学ぶにつれ、隠された部分も学校でしっかりと学ぶ事が出来ないかと思うようになりました。

次号に続きます。